

まちづくりは料理づくりと相通ずるので
はないか
大庭 康一

〔質疑〕白石のような地方の小都市のセールスポイントは、ひとのぬくもりの感じられるまちであるべきである。

そのまちづくりには多くの市民が『料理づくり』に参加し楽しく食事をする事と相通ずるものがあると思う。しかし、さる人の言によれば、どこかの国の賞をもらっ

たとか、全国の人が認めているとか、市内では評判が悪いがよそのまちでは評判の良いすばらしい料理である。おいしくないなどと誰にも文句を言われる筋合いはないとあるが、それでは市民参加の住みよいまちづくりなど望むべくもない。所見を承りたい。

市が旧かんぼの宿を取得し、その後の
利活用に対する疑問点について
高橋 鈍 斎

〔質疑〕既存の社会福祉法人があるのに、なぜ新たに市民による新社会福祉法人認可取得か。

かんぼの宿を『福祉の郷』構想でオープンした後、従来通り一般の利用者は使用可能なのか。

この施設を市外の業者等が取得した場合、市民の利益に

反する事態となるとあるが、その動きはあったのか。また、どうして今回、市民を交えてのワークショップ方式をとらないのか。現老人福祉センターは廃止し、市が運営委託する意味は何か。

〔答弁〕市長就任以来、市民

総参加のふるさと共創をあげ、未来の子供たちに誇れる活気と活力にあふれた心豊かなふるさと白石の実現を目指していききたいと表明してきた。

そして、これらを実現するためには、人づくりがまずもって大切であり、自分の住んでいる地域のため、そして白石のために、共に考え、共に行動し、共に汗を流す「共汗」「共学」「共生」をキーワードとして行政運営を行うと約束し、今現在もその考え方に

変更はない。

このまちづくりには市民の皆様が協力が必要なもの、共感が必要であると思ってい

る。つまり、市が何もしてくない、市に頼まれてやっているという要求依存型ではなく、自分たちの地域は自分たちでつくる・守るというような参加型に移行しなければならぬと思っている。時間がかかることとは思いますが、やろうという前向きな意識に変わる努力を続けて行きたいと思っ

〔答弁〕白石市社会福祉協議会には旧かんぼの宿を利活用する運営能力はないと判断したものである。

また、福祉の郷構想によりオープンした際、従来一般の利用は可能である。

旧かんぼの宿を市外の業者等が取得した場合、これまでの市内の現状を見れば、そのような事態になることは想定外の範囲であると考えたからであり、ワークショップ方式をとらなかったのは時間的な余裕がなかったからである。

現老人福祉センターの廃止検討、旧かんぼの宿を運営する新社会福祉法人に運営委託を検討していることについては、5月29日の第360回臨時議会で説明したとおりである。
※13ページの臨時会、第51号議案に掲載しております。



旧かんぼの宿



いる。
前市長時代に策定した第四次総合計画に基づく施策を継承しているが、行政手法のすべてを継承したわけではなく、すべての意識改革、気づきの気持ちを持つように促している。